

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100295
法人名	医療法人 芳明会
事業所名	グループホーム こんね
所在地	宮崎市大坪西1丁目1番56号 (電話) 0985-64-1714

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 8 月 28 日

【情報提供票より】(21年8月17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 15,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 1ヶ月 700 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4)利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	6 名	要介護2	3 名			
要介護3	名		要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	82 歳	最低	72 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	早稲田内科神経科医院 ・ 宮崎江南病院 ・ 岡野歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは交通の便の良い、医療機関が近く、民家に囲まれた住宅街にある。管理者や職員は利用者を人生の先輩として敬い、普通に当たり前の生活が継続出来るよう、日々利用者の笑顔を大切に、利用者へ傾聴し、利用者の「新しい家」になるように支援している。さらにホーム周辺民家や地区自治会との関係づくりにも努力しており、地域の中のホームとして期待される。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設して1年目、今回、初めての外部評価である。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義について、全職員が共通理解した後、各自自己評価に取り組み、複数回かけて全員の評価をまとめている。この過程において課題や改善等の気づきを得ている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	この間に2回運営推進会議を開催しており、ホームを理解してもらうような内容で取り組んでいる。メンバーには家族・地区自治会代表者・民生委員・地区班長・地域包括支援センター・周辺隣人と多様である。地域からの意見を伺い、地域に根ざしたホームになるよう取り組んでいる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等からの相談や意見・苦情等を受けとめるように努めている。ホームの様子や暮らしぶりについて、今後定期的なホーム便りなどを通して、さらに充実した報告になるよう期待したい。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区自治会に加入したことで、地域の情報を得ている。職員は地区公民館での認知症サポーター養成講座に参加したり、ホーム周辺の民家との関わりづくりに努めており、日常声かけられたり、菜園の作物を頂いたりとの関係が自然になってきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自に作り上げた理念であり、ホーム開設初年度として、地域に先ずホームを知ってもらえるよう、地域との関わりづくりに努めている。		利用者や地域のニーズ等の変化に即した理念であるためには、1年に1回の検討が望ましいと事業所は考えている。皆でこれからも検討を重ねられるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員採用時に必ず理念を伝え、理念が日々のケアにつながっていると話している。職員も利用者との関わりの中で日々実感している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入したことで、地域の情報を得ている。職員も地区公民館での認知症サポーター養成講座に参加している。またホーム周辺の民家との関わりづくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての外部評価であるが、評価の意義について全職員で共通理解した後、各自で自己評価に取り組み、複数回かけて全員の評価をまとめている。この過程において、課題や改善等に気づきを得ている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設からこの間に運営推進会議を2回開催している。運営推進会議ではホームの思いを伝え地域からの意見を伺うなど、地域に根ざしたホームづくりに努めている。メンバーは家族や地区自治会・民生委員・地域包括支援センター・周辺隣人と多様である。		さらに会議の内容に応じて、消防署や地区消防団等柔軟にメンバーを増やし、定期的な開催を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課とは、研修等の情報を得る現状であり、さらに活発な交流連携はこれからと期待される。地域包括支援センターは、運営推進会議のメンバーである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活や健康状態などは、家族等の来訪時や電話で伝えている。また毎月の利用料請求時にも手紙を同封して家族に伝えている。		行事での様子などを載せた「ホームだより」の作成など、工夫してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの相談や苦情等を受けとめるように努めている。		介護相談員の受け入れなど、今後活用を検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職後もホームを訪問し、交流を続けている。管理者は異動後も円満な関係を築こうと努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は業務体制を整備して、研修を受ける機会を確保し、職員は法人内外の研修を受けている。		受講した職員は、復命書を提出しているが、全職員が共有し、質向上に活かせるよう取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、同業者連絡協議会での交流や地域包括支援センターとのネットワーク作りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、利用者が「新しい家」として徐々に馴染まれるように、よく聴き、音や動作にも細やかな気付きをもって接するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、朝の声かけ(第一声)を大事にして、自然に快い声かけをするように心がけている。利用者の生活歴の理解に努め、過去の経験の語らいから様々な学びを得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの思いなどを、ちょっとした言葉や動作からでも把握しようと心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いに添え、安心安全な生活が送れるよう来訪した家族には直接、説明し、会えない家族には電話で意向を伺いながら介護計画を立てている。管理者や職員はアイデアを活かして個々に応じた計画を目指している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当制で計画に応じた見直しを3か月毎に行い、状態変化のある場合はその都度計画の見直しをしている。家族にも連絡し、家族と十分話し合いの時間が取れるように努めている。		状態に変化のない場合にも、毎月モニタリングを行い、介護計画の実施状況の確認を行なってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は、基本的には家族等が対応されているが、家族等の依頼で付き添いなど柔軟に支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族等の希望で、母体医療機関がかかりつけ医になっているため、急変時や突発的事態発生時に即対応でき、家族等の安心を得ている。職員は、利用者の状態を細やかに観察し、かかりつけ医に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応に向けては途上である。管理者や職員は、状態が急変された利用者のケアの体験から、今後より一層適切に対応していくことの必要性を認識している。	○	かかりつけ医・管理者・職員・家族等一緒に、対応方針について検討を重ねられるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりを人生の先輩として敬いながら、日々ケアに努めている。守秘義務にも心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望を尊重しながら、利用者のペースで過ごせるよう支援している。さらに一層利用者には添える支援をしていきたいと、積極的な意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは飯だけ炊き、他は母体病院で調理したものをホームで盛り付けをしている。利用者は食卓の準備や下膳などしている。その時々に応じて職員も一緒に食べている。		利用者と職員が、楽しみながら食事をともにすることを検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日ではないが、利用者の希望や体調に合わせて、15時のおやつの後から夕方まで入浴可能である。ホームとしては、夕食後の入浴希望にも応じたいとの意向をもっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の喜びや張り合いとして、週1回のパン屋の訪問を楽しみにされている方や、パソコン操作など利用者の望まれることや出来ることの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周囲の散歩は自由にでき、公園への散歩を日課にされたり、利用者同士連れ立っての買い物やドライブなど、出来る限り戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけていない。自由に建物の外回りの散歩ができる。すぐ脇が往来の多い道路のため、見守りには細心の配慮をしている。また常日頃、近隣の協力を得られるよう付き合いに努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を実施している。今後は防火管理者を中心に年2回の訓練を予定している。通報装置も近く設置予定である。	○	訓練にも近隣人や地区自治会等の参加を働きかけ、協力が得られるよう取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導を受けバランスのよい内容で、病院厨房と連携して、ご飯やお粥、刻みにしたり、調理を工夫し、一人ひとりの状態や体力に合わせている。誤嚥防止にも留意している。水分摂取なども十分配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は自然光で明るい。季節感を採り入れた作品も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、一人ひとりの思いで居心地よく過ごせるように馴染みのものがあり、また仏壇なども持ち込まれ、その人なりの過ごし方をされている。		